

受験対策テキスト追加・修正箇所

I. 上巻

P.116：3. 安全データシート（SDS）絵表示追加

(2) 絵表示

SDSでは、9種類の絵表示が決められている。以下にその代表例を示す。

絵表示	概要	絵表示	概要
	可燃性		急性毒性 (高毒性)
	支燃性 酸性化ガス		呼吸器感性 発がん性 生殖毒性
	火薬類 自己反応性化学品 有機過酸化物		急性毒性 (区分4) 皮膚腐食性・刺激性 (区分2)
	高圧ガス		水生環境毒性
	金属腐食性物質 皮膚腐食性 目に対する損傷性		

P.117：〔出題例〕

H29-20 解説を変更

①解説 (×：二硫化炭素 (CS₂) は、硫黄と炭素の化合物で劇物ではあるが、水と接触しても爆発はしない。)

P.121：知覚する電流値

名称	説明	電流値
最小感知電流	人間が電撃を知覚することができる最小の電流	交流で約0.5mA 直流で約2mA
苦痛電流	人間の身体を流れる電流の値を大きくしていくと筋肉が痙攣を起こしたように痛くなる。この苦痛に耐えられる限界の電流	交流で約 5mA (生命には別状ない)
離脱電流 (可随電流)	苦痛電流よりさらに電流を大きくしていくと、通電経路の筋肉が痙攣するが、運動の自由を失わず、離脱が可能な限界の電流	交流で約10mA (意識ははっきりしている)
不随電流	離脱電流と同様、電撃を受けていることの意識ははっきりしているが、運動の自由を失い、自力で接触充電部から離脱できなくなる限界の電流	交流で約 50mA 離脱電流より高い
心室細動電流	さらに電流を大きくしていくと心臓が痙攣(心室が細動)を起こし正常な脈動が打てなくなり、血液の循環に支障が生じ、それが持続すると死亡に至る。この心臓が痙攣(細動)を起こす電流を心室細動電流という。	許容限界は、3～10秒の通電で40mA (IEC値) 0.8秒では、100mA

P. 131 : 模擬問題

表 1 に示す事業場のある年の労働災害の発生状況は、表 2 のとおりであった。労働災害の指標に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

	区 分	平均労働者数	年延労働時間数
表 1	事務部門	100 人／年	200,000 時間
	工事部門	400 人／年	800,000 時間
表 2	死亡災害 1 名 休業災害 3 名 休業日数 156 日 (障害なし)		

- ①この事業場の度数率は、4.00 である。(○：度数率 = $(4/1,000,000) \times 1,000,000 \text{ 時間} = 4.00$)
- ②この事業場の強度率は、7.62 である。(○：強度率 = $\{ (7,500 + 156 \times 300 / 365) / 1,000,000 \} \times 1000 \div 7.62$) ※ 労働不能日数は、暦日の休業日数 156 日に 300 日／365 日 を乗じて求める。
- ③この事業場の年千人率は、8.00 である。(○：年千人率 = $4 / 500 \times 1,000 = 8.00$)
- ④この事業場の度数率は、この年の全産業の全国平均の度数率の約 1.5 倍である。(×： $4.00 / 1.61 \div 2.48$)
- ⑤この事業場の強度率は、この年の全産業の強度率の約 80 倍である。(○： $7.62 / 0.09 \div 84.7$)

P. 133: 死傷災害の業種別順位

業 種	H 2 7		H 2 8		順 位
製造業	26,391 人	22.7%	26,454 人	22.4%	①
建設業	15,584 人	13.4%	15,058 人	12.8%	③
陸上貨物運送業	13,885 人	11.4%	13,977 人	11.9%	④
第三次産業	52,308 人	45.0%	54,280 人	46.0%	—
商業	17,150 人	14.7%	17,693 人	15.0%	②

P. 165 : 労働安全衛生マネジメントシステム構築前 (PDCA 前) に実施する事項

実施項目	実施事項	具体的内容
①方針策定	経営方針の確認	経営方針に安全面について盛り込まれているかを確認する。無い場合は規格の要求事項に従って安全衛生面を盛り込む。
②導入宣言	システムの導入宣言	方針を策定し、システムの構築開始 (導入) について、宣言する。

※ 「導入宣言」を追加しました。

P. 172: 施工計画・施工管理 [キーワード]

分 類	キーワード
施工計画・施工管理	足場工事 (枠組み足場、単管足場、鉄骨造建築物での安全ネット)
	移動式足場、くさび緊結式足場、手すり先行工法
	支柱式足場の壁つなぎ
	溝掘削工事、建込み方式軽量鋼矢板工法